

地域密着型サービスの自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念を作り、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスが出来るように努力しているが、地域密着型サービスとしてはできていない。	○	地域密着型サービスとしての理念を作りあげて行きたい。
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの見やすいところに理念を明示し、共有して、理念の実施に向けて日々、努力している。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホームの運営理念や役割が家族や地域の方々に理解してもらえるよう取り組んでいる。（ホーム便りやパンフレット等）	○	今年になって周囲に次々と家が出来ているので地域の人々にグループホームの理念を理解してもらえよう取り組んで行きたい。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩の時、近所の子供たちが駆け寄ってきて話しかけたりしてくれる事もあり、又、犬の散歩の方に声をかけて立ち寄ってもらい話していただいたりしている。	○	周囲に家が少なかったが最近になって徐々に増えつつあるので日常的な付き合いが出来るようにしていきたい。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や老人会等には参加していないが、年一回の文化祭には出品したり、見学に参加している。	○	地域の一員として地域活動に参加していくよう取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域密着型の計画が不十分な為活動ができない。	○	運営推進会議を充実させて、地域ぐるみの活動をしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価を実施する意義は理解しているが、中には評価を活かせないこともある。	○	外部評価の方とこの件については直接話しをしてみたいと思っています。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は実施しているが内容の充実ができてなく、サービス向上に至っていない。	○	会議の中で評価を報告し委員の意見を取り入れ取り組んでいきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者が事ある毎に報告や相談に本庁や総合支所に出向き相談し、連携をとっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度や地域権利擁護事業については必要な人にはそれらを活用出来るように支援している。	○	新人職員には学ぶ機会を作りその際に全職員もより制度の理解を深めるよう取り組んでいきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止については、苑内にて虐待が見過ごされることが無いように充分注意を払い防止につとめている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分な説明を行い、理解していただけるように努め、不安や疑問点はないか尋ねて納得していただけるように図っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者から不満の声や苦情が聴かれた時は速やかに管理者が運営者に相談し、必要時は直接相談出来るように図らっている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理については、入金していただいたときに出納を明らかにして報告している。家族が面会に来苑時は心身の状況、苑での生活の様子を個々にあわせて伝えている。	○	職員の異動はあまりないが、あった場合の報告ははっきりと伝えていない。今年度は職員の離職、管理者の交代、パートへの変更があるので家族に報告が必要。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	以前に家族から苦情の意見を伺ったことがあったが、良く話を聴き、そのことについては、きちんと説明して納得してもらった。現在の所、意見箱を設置しているが1件も入っていない。	○	家族の方は言いたくても言えないのかもしれないので、気軽に不満や苦情を言えるように信頼関係を作って行きたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の合同カンファレンスや、機会ある毎に意見や提案を聴き、反映させている。	○	運営者の方がホームに来苑される日を増やしていただいて意見や提案をもっと取り入れて欲しいとおもう。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	出来る限り、要望に答えられる様に努力しているが介護度の重い方がおり、全ての要望に対応することが難しい。	○	受診時、家族が無理な時は苑で対応している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今までは職員の異動や離職が殆ど無かったので、利用者のダメージはあまり見られなかった。	○	今年度は、A棟職員の離職やパートへの変更等ある為、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしていかなければならないと考えている。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種の研修や講習については、時間の許す限り各人参加をしていただいています。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護職員については、なかなか時間的に困難ですが事務長や施設長は同業者と交流をもっている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	忘年会はあるがシフト性のためその他のストレス軽減の機会をつくる計画ができていない。	○	全体での計画は難しいので各棟での計画をしてはと考慮している。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況は把握しているが、向上心を持って働けるようには努めていない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている 入居時は、本人の帰宅願望が強く、訴えが多い為不安な様子が有々と伝わってくるので良く話を聴き、対応し、同じ事の繰り返しであるが受け止める努力をしている。	○	家族の方に本人が不安に思っておられる内容を、紙に書いて頂き、それをみせるとその場は安心される。しかし、毎日毎日繰り返して、長くなるとあまり信用されなくなる事もあるので、他の事も考えていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている ケアマネージャーが相談から利用に至るまで家族と何度もコンタクトを取り、良く話を聴いて受け止める努力をしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ケアマネージャーが窓口となり、職員の意見も聴き、管理者と相談しながら初期対応に努力している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している 精神科の病院等に長く入院されていた方などは、入院中に2～3度、昼間の間、苑内で昼食やおやつを食べていただいたりして、利用者の方が皆で過ごされるホールで過ごして頂き、場の雰囲気に徐々に馴染める様な工夫も行っている。	○	当苑には、デイサービスがないので、今後入所前に必要な方は2～3回昼間の苑内の雰囲気に徐々に馴染めていただけるように配慮したり、又、反対にそのような形式をとると駄目な方は、家族と良く相談してすぐ入所していただくような方法も考えていかなければならないと思っている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている 一人一人が家族と思い、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にしている。又、人生の経験者として、利用者の方から学ぶ事も多い。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	お正月には家族と共に利用者の方が過ごされる様に年に1度の外泊をお願いしている。外泊できない方は、外出をお願いしている。外泊後は家族みんなで利用者を囲んで過ごされた話をゆっくり聴いて喜び、感謝を伝えている。	○	今後も年に1度の正月外泊は出来る家族には声かけし、利用者と共に過ごして頂き職員が味わっている。利用者の方との楽しみ等も感じていただけるように働きかけて行きたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の面会も多く、本人と家族のより良い関係が築けていると思う。職員も面会時は、本人と共に喜びよい関係が続くように支援している。	○	家族の面会の少ない人には声かけし、本人が家族に会いたがっておられる気持ちを伝えて、時々来苑して頂けるように支援を続けていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方にも認知症の方の理解をして頂く様に、家族の方にも話しして頂き、又、職員も街で見かけた時は、是非、遊びに来苑して頂けるように声掛けしている。	○	馴染みの人の面会が少ないので、認知者の方は昔の事はとても良く覚えておられ、合っても解られるし、喜んで話しも出来る事などを伝えて、面会に来苑してもらえる様支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者、一人ひとりが孤立しないように関わり合い、支え合えるように努力はしているが、意志の疎通の取れない人もいるので、支援が難しい時もある。	○	意志の疎通の取れない方に対しては、職員が常に心配りし、他利用者が優しく関わってくださるよう支援している。今後も頑張っていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても継続的な関わりを必要とする方については、ケアマネージャーが連携を取っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の面談、家族の面会時、日々の本人との会話の中から、本人や家族の気持ちを聞き、日々のケアの中に活かしている。（散歩、外出支援、苑内の手伝い、レクリエーション活動、筋力アップ運動等）散歩に行くと近所の方が声かけして下さり、野菜を頂いたり、入居者の以前の話も出て、本人たちの表情も良く、喜ばれる。又、自然に触れることはいい気分転換にもなっている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話、他の入居者との会話、家族、友人の面会時に情報を得ている。以前利用された施設からの情報提供等。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケアプランや日課表、毎日のカルテの中から把握し、毎日のミーティングの中で、引継ぎ情報を共有し、事故防止や日々の暮らしのケアに活かしている。	○ 家族の面会時や状況が変化した時は、電話等で家族とも暮らしの現状を把握しているが、今後とも丁寧に現状把握を共有していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ご本人、家族、当苑スタッフ、ケアマネージャーを中心に利用者本位の介護計画になるように計画している。その為に月1回のモニタリング、3ヶ月1回の家族を交えたモニタリング、6ヶ月1回家族本人同席で担当者会議を開いている。	○ 帰宅願望の強い利用者に対して、ドライブや散歩の機会を増やしたい。又、地域の色々な行事に気軽に参加出来るように支援していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の体調や骨折等により、実行できないプランが発生した時は、家族に連絡し見直しのプランを提示している。又、見直しの時期がきていなくても、効果や本人の拒否が強い場合は見直している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を毎日記録している。毎朝の引継ぎ時に情報を共有し、見直しすべき点については、すぐ改善し、実施している。（転倒防止、食事摂取、体調管理等）	○	筋力低下や認知力低下により、転倒の危険性の高まった入居者に毎日の情報把握により環境整備や、家族への支援のお願いや夜間時のケアなど毎日、実行していき、改善できた。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当事業所は、多機能型ではない為、地域密着型の共同生活介護しかできない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・ボランティアによる毎月1回の紙芝居 ・保育園児の慰問 ・街の文化祭への出品、見学 ・老人クラブからの雑巾やタオルの寄付		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現状では、他のサービスの活用支援は行っていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・社協の権利譲後を利用している。月1回の訪問。 ・包括支援センターと協働して入居者の相談を受けたり、情報を共有している。 ・包括支援センター主催の地域全体を交えた会議に出席し協働している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診支援ができています。適切な医療を受けられるように支援している。 かかりつけ医（市立田野病院、小村内科、北村内科、城山病院（清武町）、小村歯科、井上病院、若草病院）		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医で認知症の人の受診の困難さを感じたときは、家族と相談の上、認知症の専門医等の受診支援を行っている。入院加療が必要な状況の時は、相談している。（野崎病院、井上病院等）		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎日AM10時バイタルチェックを施行し、健康状態の把握をしている。いつもと様子がおかしいなと思った時はすぐにバイタルチェックし、異常時はかかりつけ医に受診している。各ユニットに看護職員がいるので職員と共に日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期退院に向けて相談はしているが、中々難しい状況である。1ヶ月間は猶予している。それ以降は、家族と事業所との相談となっている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期は現時点での方針は入院加療としている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今後の変化に備えて、検討はしているが、緊急時の意志の確保が困難な為、現時点ではできない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	家族、本人に充分説明し、納得された上で退去者 先に移れるよう支援している。情報提供書も退去 先に送付している。又、退去先のケアマネー ジャーと連絡を取り、本人がスムーズに新しい生 活に入れるように支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情報 の取り扱いをしていない	利用者の人格を尊重し、プライバシーを損ねない ような言葉かけや態度で配慮している。記録のと きも、個人名が記載されないように気をつける。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、 わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、 わかる力に合わせた説明はしている。時間がある 時は、ゆっくり本人の思いを聞くように心がけて いる。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	午前10時のバイタルチェック、おやつ、体操の後日 光浴や外気浴をしていただいているが、声かけし、希 望に添って支援している。無理には勧めていない。ラ ジオが楽しみな方は、自室で過ごしていただい て。一人一人のペースを大切にして、自由に過ごして いただけるよう支援しているが、健康維持や気分転換 の為、午前中はできるだけ利用者全員で交流を図るよ うに時間をいただいている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来る様に 支援している。理容美容は本人や家族の望む店に 行けるように努めている。決まった理容院、美容 院に行かれる方以外は苑の職員がカットしてい る。職員の勤務者が多い時に白髪染めを希望され る方は施行している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを把握して、献立や調理に活かしている。主菜が嫌いな方については、代替食を作って食べていただいている。（カレー、シチュー、ハヤシライス等）献立には、季節感を感じさせるものや、昔なつかしい物等を取り入れている。一部の人ではあるが、職員と一緒に準備や配膳、片付けを手伝ってくださっている。食事は職員と利用者が一緒に食べている。楽しみに待っておられる。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食物は嗜好の支援をしている。現状は当苑では禁煙としているが、喫煙される方はおられない。飲酒される方もおられないが、行事のときは、アルコールを希望される方には提供はできる。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄パターンを把握し、トイレで排泄可能な方は、トイレ誘導を行い、気持ちよい排泄ができる様に支援している。	○	オムツを出来る限り使用しないで済むように努めてきたが、高齢化に伴い尿失禁が増えて来た為、紙パンツの使用が増加している。夜間はポータブルトイレの使用も増加しているので今後、減らしていけることは出来るように心がけていく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は楽しんで入っていただいている。ひとりしか自分で入浴出来る方がいない状況で一人一人の希望やタイミングに合わせて入浴をしていただくのは、現状では業務上無理。現在1日おきに4人の日と5人の日に入浴していただいている。5人の日に独自で入れる方に入っていただき、残りの方は脱衣介助、入浴介助、着衣介助で一人30分要している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	1日の生活リズムを把握し、安眠や休息が取れるように支援している。	○	昼寝をしても夜間ぐっすり眠られる方もおられるし、昼寝をすると夜間不眠状態で夜間せん妄の方もおられるので、そのような方は出来るだけ昼間は居間で過ごしていただくように働きかけている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干しやたたみ方、食前の盛り付け、片付けなど、その人の能力に応じて職員と一緒にしてもらっているが、限られた人だけである。ビデオを見るのが楽しみな方には、民謡や歌謡ショー等録画しておいて、観て、聴いていただいている。一人一人の生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援が出来るように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に 応じて、お金を所持したり使えるように支 援している	利用者がお金を持つことの大切さは理解している が、現実的に難しい状況である。現在一人しかお 金の所持はできていない。この方もいろいろ問題 を抱えながら買い物支援している。	○	店が近くになく、買い物しにくい立地条件にある 為、難しい問題である。持てる力を活かし、買 物を楽しめる場面づくりを工夫していかなければ ならない課題がある。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひと りのその日の希望にそって、戸外に出かけ られるよう支援している	日常的な外出支援はできていない。冬場は寒い 為、散歩にも行けず、苑庭で日光浴や外気浴を支 援している。	○	車イスの方が多く、春になっても現状の勤務体制 では苑外へ散歩に行くのは困難な状況。日勤者が 2人いないと出来ないのでパートを増やしてもら いたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けな いところに、個別あるいは他の利用者や家 族とともに出かけられる機会をつくり、支 援している	苑の行事として、春には桜の花見、秋には紅葉狩 りを兼ねたドライブに行ったり、町の文化祭に出 かける機会を作り支援している。	○	全員で出かけるのは高齢化と共に、益々困難にな る為、個別で家族に依頼する機会を増やして行き たい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をし たり、手紙のやり取りができるように支援を している	電話については、職員としては心身の安定も図れ ると思うので自由に出来るように支援したいが、 家族にとっては迷惑な様なので、不穏時は家族の 許可を得て使用出来るようにしている。	○	手紙については、1名の方のみ希望されるが、自 由にやり取り出来るように支援していきたい。1 名の方は家族が東京におられ、時々TELをいた だいたり、京都の娘さんからもTELがあり、嬉 しそうに話しておられる。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの 人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地 よく過ごせるよう工夫している	家族や馴染みの人が、いつでも気軽の訪問してく ださるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束を しないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ベッド を壁際につけて、ベッド柵を1個だけ布団が落ち ないように使用している。又、柵に掴まって起き る利用者もあり、1箇所は必要。	○	夏になると、布団などの掛け物が少なくなるの で、ベッド柵をしなくても良い方についてははず していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵はかけていない。日中、玄関に鍵をかける事の弊害は理解しているが、開いていると必ず外に出られる方が3～4名おられるので、現状では鍵をかけないケアは無理。	○	鍵をかけない意識を持っていても、鍵をかけずに安全を追求した自由な暮らしを支える取り組みは現状では考えられない。職員が気づかずかなり遠くまで車イスで出かけていた方もおられた。今後も課題として取り組んで行きたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に目配りしながら、利用者の様子を把握し、安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は洗剤などは、入居者の手の届かないところに保管している。刃物等は、保管場所を決めていつも数量の確認をするようにしている。但し、台所用洗剤は台所にいつも出している。	○	洗剤と飲み物の区別がつかない方がおられた時は、危険を察知し、台所洗剤も目に見えない所に置くように対応していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒しやすい方、誤嚥しやすい方、離苑のある方については、特に目配りし一人ひとりの状態に応じた事故防止に努めている。全員が服薬の必要な方なので、誤薬が発生しないように事故防止に努めている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	基本マニュアルを作成し、いつでも対応出来るように努めているが、定期的には行っていない。現時点では職員も不安がある。	○	急変時や事故発生時は、どうしてもあわててしまうので、定期的に訓練をおこなって行きたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災時は、直通で連絡できるシステムをとっている。職員は、災害対策の方法を身につけているが地域の人々の協力を得るまでには至っていない。	○	最近では周囲に家が増えつつあるので、徐々に協力を得られるように取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	各人に起こり得るリスクについては、入居時及び3ヶ月に1回の家族を交えたモニタリングや6ヶ月に1回の担当者会議等で説明したり、対応策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルサインをチェックし、入居時の健康状態を記録して残している。又、体調の変化や異変の早期発見に努め申し送りでも速やかに情報を共有し対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各人の服用表を作成している。薬の情報を薬局からもらい、カルテに添付して全職員が理解できるようにしている。服薬支援はできている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響については理解しており、飲食物の工夫や運動して頂く様に日々働きかけ、予防に努めている。又、下痢などの服用を考慮して対応している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアが出来る方については、毎食後声かけして、していただいている。一人で出来ない方については、毎食後自室へ誘導し、介助している。総入れ歯の方は、ポリデントを夜間に使用している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人一人の摂取カロリーや水分摂取量、栄養バランスを1日全体を通じておおよそ把握し、支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染マニュアルを作成し、その都度対応出来るようにしている。インフルエンザについては、全員、家族の同意を得て予防接種している。職員もしている。	○	A棟ではまだ1度も感染者が発生していない。日々、手洗いを励行し、予防に努めていきたい。早期発見できるように心がけて行きたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は毎日買い物に行き、作り置きはせず、常に新鮮な物を使用するように努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りは広々としており、周囲に花もあり、いつでも気軽に立ち寄っていただき出入り出来るようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が出るように、その季節の花を飾って楽しんでいただいている。居間では、居心地良く過ごして頂く様にTVの音やCDラジカセは利用者の意向に合わせ、音量を調節したり、好きな音楽を流したりしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	我が家のような家庭的な温かい雰囲気ができるように飾りつけ等配慮している。入居者が自分の好きなところで自由に過ごせるようにソファを設置したり、畳の間でくつろいで聴いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ家具、生活用品、人形等を持ち込まれている。仏壇を作ってきておられる方もあり、花が枯れないように水を毎日かえておられる。	○	何も持参されていない方もあり、家族の面会時等に声掛けしている。継続していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく、換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気清浄機を設置しており、月に1回のメンテナンスをしてもらっている。天気の良い日は窓を開け、換気している。暑い時、寒い時はエアコン使用し温度調節している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所に手すりを設置しており、床はバリアフリーになっており、安全に生活できるように配慮している。ポータブルトイレを夜間使用される方で起立が不安定な方は掴まり棒（ベッドに固定）を設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の前に花やリボンを付けたり、名前を書いたりしても自室がわからない人もいるので、その都度誘導している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭はあるが、うまく活用できていない。風邪の強い日等は風が巻き、ほこりが立ち過ぎることが出来ない。西風が強いときは、苑の東側にベンチを移動し、会話を楽しんだりしていただいている。	○	現在は玄関前にベンチを設置し外気浴や日光浴したりしながら会話を楽しんでもらっている。今後中庭の活用を検討していきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
			②数日に1回程度ある
		○	③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）